



特別付録

1日3分で視力回復
眼筋ほぐしメガネ

美熟女の官能 女性器 で「童貞喪失の快感」 もう一度

全国女子アナ55人 裏ネタ 名鑑スペシャル

豪華付録も満開! 春爛漫スーパープレミアム合併号

100歳の壁」を越える秘訣を解明

慶應医学部が血圧は? 血糖値は?

性格 病歴 食生活
職業のビッグデータ入手



2023 Apr. 4.7/14 特別価格550円

「家族の相続税」が安くなる

2024年大改正 いよいよ迫る!

対策の第二步 **財産の棚卸し 目録整理 相続人の確認** 26のポイント

生前贈与 ルール変更には **相続時精算課税制度** を賢く使う

小規模宅地等の特例 ほか「家の相続」を徹底的に安くする裏ワザ一覧

「アパート経営」**絶対**にやってはいけない**相続対策**

墓の購入... **絶対**にやってはいけない**相続対策**

岸田首相、サミットで支持率は上がらんよ!!!

広島

「ヤバイ」から「ドバイ」に集う

現地発 スcoop

ガシーからネオヒルズ族まで 元朝日記者 伊藤喜之

1位はトヨタ、新社長期待度ランキング 20

夫婦の得する年金 早見表

1200万円差がつく

いつまで働く? いつからもうろう?



「ニッポン経済復活を担う者たち」

トヨタ ソニー アサヒビール 西武 HD JR東海 三井不動産 ほか...



有名企業の「新社長」期待度ランキングBEST 20



プロ20人がガチンコ採点!

100年に二度の変革期だ

世界的なインフレに加え、米銀行の破綻に端を発した金融危機が日本経済を襲っている。今春に企業の「顔」となる新社長には難局を乗り切るリーダーシップが求められる。有識者20人が様々な指標から選んだ「期待度」の高い経営者は誰か(文中一部敬称略)。

今春は日本を代表する大企業で「トップ交代」が相次ぐが、これまでとは異なる「大胆な起用」が多く見られるという。経済ジャーナリストの河野圭祐氏が言う。「『〇年ぶり』や『初の〇〇』という人が目立ちます。世界的な物価高騰など、不透明で不確実な経済状況にある。そうしたなか、過去とは非連続な人事で、思い切った決断ができる人に経営を託す企業が増えています」

の豊田章男社長から14年ぶりにバトンを受け継ぐ佐藤氏は、レクサスブランドなどを手がけてきたエンジンニア。約30年ぶりの「理系出身社長」だ。これまでトヨタは水素自動車(FCEV)へ注力してきたため、世界的にシフトが進むEV(電気自動車)分野への乗り遅れが指摘されている。だが、佐藤氏は2月13日の記者会見で、「EVファーストの発想で事業の在り方を大きく変えていく」との方針を示した。経済ジャーナリストの片山修氏が言う。「人事で社内FA制度を開始するなど、早くもトヨタの改革を進めている。期待度は極めて高い」

佐藤氏の人物像について経済ジャーナリストの森岡英樹氏もこう評する。「章男さんとは「車好き」という点で一脈通じる部分があると思います。53歳の佐藤さんの新しい感覚を活かした取り組みを打ち出していくはず。車のデザインや機能そのものが変容する可能性もあるのではないかと」

「毛簾氏の社長就任は、営業畑で北米市場を手がけてきた経験から、グローバルの販売拡大を意図していることと思われる。一方の大崎氏は技術系出身で、30代後半から労組書記長を務めるなど経験豊富な人材。経歴が大きく異なる新トップたちが、

EVシフトという難題にどう立ち向かうのか注目しています(河野氏) 同様にアフターコロナへの対応が迫られる不動産業界では三井不動産が植田俊氏(9位)へ、三菱地所が中島篤氏(15位)へとライバル2社が時を同じくして交代となる。

ら社長になるケースが多い。特にグローバル企業では、数字に強く、財務・金融環境の変化に機敏に対応して収益化する能力が求められるという」

アサヒのカルチャーを破壊

2位にはソニーグループの十時裕樹氏が入った。就任会見で「成長」をスローガンに掲げた十時氏は森岡氏はこう評する。「前任の吉田憲一郎さんと同じ財務畑出身ですが、ホンダと組んだEV開発やメタバース進出など、近年の新規事業のほとんどを任されてきた。事業の創出能力に長け、経営能力が高いといえます」

十時氏の経歴で目を引くのが、財務畑でCFO(最高財務責任者)であることだ。今やグループの中核事業であるソニー銀行の設立を主導したことも知られている。今回の社長交代は、「非常に現代的だ」と関氏は語る。「第一三共・奥澤幸氏(15位)もそうですが、中小企業を含めてCFOか

「松山さんは4年半の間、「スピードライ」のリニューアルや、新商品「アサヒ生ビール(マルエブ)」を大胆に売り込んだ。P&Gで学んだ消費者中心の哲学を持ち込み、アサヒのカルチャーまで変えました。前任社

30年ぶりの技術畑出身「初の女性」から「外資系からの転職組」までこの難局に立ち向かうトップの「実力」とは

順位	企業名	新社長の名前(年齢) 以前の肩書き	ポイント数	識者の選評
13	資生堂	藤原憲太郎(56) 常務	18	「海外経験が長く、これまでは主力の中国事業を中心に担ってきた。外から国内を見る力がある人物」(植木氏)
14	日本郵船	曾我貴也(63) 取締役専務執行役員	15	「液化天然ガスの運搬などの分野を牽引。26年度までに1.2兆円の事業投資を計画しているが、上手に舵取りできるはず」(真壁氏)
15	第一三共	奥澤宏幸(60) 取締役最高財務責任者	14	「CFO経験からファイナンスの能力に優れている経営者。ほかの日本企業にも影響を及ぼす人選と言える」(馬淵氏)
15	三菱地所	中島篤(59) 取締役兼代表執行役専務	14	「海外経験が長く、村着しない性格。リスク管理対策に長けていると言える。ガバナンス改革にも期待」(柏木氏)
17	コスモエネルギーHD	山田茂(57) 取締役常務執行役員	13	「石油だけに依存できなくなっているなかで脱炭素を目指し再生可能エネルギーを牽引してきた。現代にマッチしている」(荻原氏)
17	サントリー食品インターナショナル	小野真紀子(63) サントリーHD常務執行役員など	13	「同社初の女性社長。ワイン醸造所買収など海外事業の知見を活かして、市場販売の拡大を色濃くしていくと思われる」(河野氏)
17	スクウェア・エニックスHD	桐生隆司(47) 取締役	13	「40代と若い。転職してきてわずか3年で抜擢されたため、SNS上で懸念の声も見られるがそれも含めて楽しみ」(磯山氏)
20	東武鉄道	都筑豊(62) 東武商事社長	10	「ファミリーマートと組んで無人決済システムを導入した実用化店舗を岩槻駅に開業。新しいことに挑戦する力がある」(前屋氏)

※今年1~6月の間に就任する(した)代表取締役について、各識者が最大1~5位まで順位をつけて投票。ポイントは1位(10点)、2位(9点)、3位(8点)、4位(7点)、5位(6点)。「ポイント数」はその合計点を記した。識者は有森隆、磯山友幸、植木靖男、大西康之、山本史、荻原博子、長田貴仁、柏木理佳、片山修、河野圭祐、須田慎一郎、関慎夫、常見陽平、中原圭介、福田俊之、前屋毅、真壁昭夫、馬淵磨理子、溝上憲文、森岡英樹(五十音順、敬称略)

行・福留朗裕氏(12位)も同様だ。千葉商科大准教授の常見陽平氏が語る。「これまでは旧住友銀行出身者が社長(頭取)になるのが通例でしたが、福留氏は初の旧三井出身トヨタの金融子会社社長などグループ外企業のトップを務めた人物が就任するのも異例です。IT化や働き方改革の過渡期にある銀行を変える取り組みに期待したい」ソフトバンクや日本電産など日本の大企業では今、カリスマ経営者や創業者からの継承・脱却も課題とされている。そんななか、カシオ計算機は創業家以外では初となる増田裕一氏(5位)が社長となる。68歳という年齢から、ワンポイント登板」と見る向きもあるが、主力商品「Gショック」の開発を率いた経験もあり、新規事業の打ち出しに注目が集まる。千葉商科大学教授の磯

山友幸氏は、同じく創業家からの脱却を図るオムロンで社長となる辻永順太氏(11位)に注目する。「オムロンは取締役から初めて創業家がいなくなる人事を決めた。同社は10数年前から『社長指名諮問委員会』を置き、社長人事の透明化を図ってきた。その取り組みが結果する。今回の人事がうまくいくかに注目です」新時代の始まりを感じる交代もあった。JR東海の丹羽俊介氏(6位)はJR6社で初の「民営化後」入社の社長になる。「昨年5月に『国鉄改革3人組』の1人である葛西敬之名誉会長が亡くなったこともあり、本当に時代を感じる人事だと思います。国家的事業であるリニア建設を、目標とする27年開業に向けて軌道に乗せられるのか期待しています」(関氏)

順位	企業名	新社長の名前(年齢) 以前の肩書き	ポイント数	識者の選評
1	トヨタ自動車	佐藤恒治(53) 執行役員	124	「約30年ぶりの技術者出身。前任の豊田氏も直接やってほしいと懇願するほどの人物。EVシフトへ期待」(森岡氏)
2	ソニーグループ	十時裕樹(58) 副社長兼最高財務責任者	117	「主に財務畑を歩んできたが、ソニー銀行の創業メンバーであるなど起業家としての実績も優れている」(片山氏)
3	アサヒビール	松山一雄(62) 専務取締役兼専務執行役員	66	「P&G出身のマーケティングのプロ。スーパードライ、マルエフなどに続くヒット商品を生み出す力があるはず」(河野氏)
4	日本マイクロソフト	津坂美樹(59) ポストン・コンサルティンググループ(BCG)経営会議メンバーなど	47	「同社初の女性社長。外資コンサル出身でアメリカでの経験も長い。日本の企業カルチャーを変える力がある」(磯山氏)
5	カシオ計算機	増田裕一(68) 専務執行役員	44	「創業家以外で初。長く時計分野を専門にしてきただけに、その成功体験を他事業に活かせるかが注目される」(有森氏)
6	JR東海	丹羽俊介(57) 副社長	34	「87年の『国鉄民営化』後に入社した社員で社長となるのは初。リニア中央新幹線の開業を軌道に乗せる重責を担う」(関氏)
6	西武HD	西山隆一郎(58) 取締役常務執行役員	34	「97年に起きた旧第一勧業銀行の総会屋利益供与事件では広報として奔走。愚直で真面目一辺倒な性格」(森岡氏)
8	マツダ	毛籠勝弘(62) 取締役専務執行役員	33	「北米市場を同社にとって最大のマーケットに成長させた実績を持つ。将来を見据えた考え方や発言ができる」(岡山氏)
9	三井不動産	植田俊(62) 取締役専務執行役員	32	「タワマンや商業施設などのバブル的な開発路線から、軌道修正できる能力があると期待される人物」(須田氏)
10	SUBARU	大崎篤(60) 取締役専務執行役員	27	「12年ぶりの技術系出身。社長交代記者会見では歯に衣着せぬ物言いを見せた。肝っ玉が据わっている」(福田氏)
11	オムロン	辻永順太(56) 執行役員常務	21	「FA(※)機器で成長してきた同社をサービス事業で拡大させた立役者。日本製造業のDXの牽引役となれる人材」(大西氏)
12	三井住友銀行	福留朗裕(60) 専務執行役員	19	「トヨタの金融子会社の社長を務めるなど、他社との連携も期待大。世界に通じる金融商品・サービスを実現できそう」(常見氏)

長も「明るくて飲んでいて楽しい」「巻き込み力がある」など評価しており、今後どう進化させていくか楽しみ」(河野氏)ライバルのサントリアホールディングスは14年からプロ経営者の新浪剛史氏を社長に据えており、飲料業界のトップ争いが熾烈になりそうだ。4位の日本マイクロソフト・津坂美樹氏もプロ経営者として期待がかかる人物。ポストン・コンサルティング・グループ(BCG)出身で、05年に米「コンサルティンク・マガジン」誌で「世界で影響を与えるコンサル25人」に選ばれている。「日本企業の管理職に占める女性割合の低さが社会的課題とされるなか、同社初の女性社長としても注目。プロ経営者とダイバーシティの象徴になれる人材です」(ジャーナリストの大西康之氏)前例にとらわれないという点では三井住友銀

※ファクトリーオートメーション(工場での生産工程の自動化を図るシステム)